

モンゴル語の連体修飾節: 事実の整理と今後の課題

梅谷博之 (東京大学)

1. 本発表の目的

寺村 (1981, 1992) による連体節の内・外の関係の区分, およびそれらの下位区分は, モンゴル語¹の記述においてもツールとして有用である。この区分を用いることによりモンゴル語の連体修飾節の大まかな全体像が先行研究によって示された。本発表では先行研究による連体節の下位区分を利用しつつ, 発表者の調査により現時点で分かっていること, および今後の調査にあたっての着眼点を提示する。

2. モンゴル語の連体節

2.1 概要

向井 (2006: 51) が述べるように, 「モンゴル語連体節のもっとも一般的な形式では, 語順の類型において「名詞前方型 (prenominal type)」, 主要部痕跡の残留度において空所型となる一方, 主語は属格形 (環境によっては主格形のまま) に, 動詞の述語は形動詞形²に変化する」。(1a), (2a) を参照。本発表では連体節を { } で括り, 連体節により修飾される名詞 (句) を下線で示す。

- (1) a. {Dorž-ijn zur-san} ene zurag ix sajxan bajna.
 PSN-GEN 描く-VN.PST この 絵.NOM とても 美しい MP
 「ドルジが描いたこの絵はとてもきれいだ」
- b. Dorž ene zurg-ijg zur-san.
 PSN.NOM この 絵-ACC 描く-VN.PST
 「ドルジがこの絵を描いた」

¹ 本発表で扱うモンゴル語は, モンゴル国の首都ウランバートルを中心に話されているハルハ方言である。例文表記は, キリル文字による正書法に従い, ローマ字転写したものをを用いる: a=a, б=b, в=v [β], г=g, д=d, е=je/jö, ё=jo, ж=ž [dʒ~tʃ], з=z [dz~ts], и=i, й=j, к=k, л=l [ɮ], м=m, н=n, о=o [ɔ], ө=ö [ø], п=p, р=r, с=s, т=t, у=u [ʊ], ү=ü [ʊ], ф=f, х=x, ц=c [tsʰ], ч=č [tʃʰ], ш=š [ʃ], ь=’, ы=y [i:], ь=’, э=e, ю=ju/jü, я=ja。

² 「形動詞形」は動詞の屈折形の1種類である (非過去, 過去・完了, 習慣など複数あり)。形動詞形は, 連体修飾の機能や, 項の主要部となる (名詞節を形成する) 機能などを有する。動詞の屈折形の種類には他に, 終止形, 副動詞形がある。形動詞形, 終止形, 副動詞形が果たしうる機能をまとめると次のようになる ((+) は, 一部の形動詞形のみが有する機能であることを示す)。

動詞の屈折形の種類と機能

機能 屈折形	主節述語 (文終止)	連用修飾	名詞節形成	連体修飾
形動詞形	(+)	(+)	+	+
終止形	+			
副動詞形		+		

- (2) a. {Ur'd=n' saxilgagüj baj-san} Bold-yn xüüxed
 前=3POSS 無秩序の ある-VN.PST PSN-GEN 子供.NOM
 odoo xümüüži-ž baj-na.
 今 成長する-CVB.IPFV いる-TV.NP
 「以前騨がなっていなかったボルドの子供は、今は素行がよくなってきて
 いる」
- b. Bold-yn xüüxed uri'd=n' saxilgagüj baj-san.
 PSN-GEN 子供.NOM 前=3POSS 無秩序の いる-VN.PST
 「ボルドの子供は以前は騨がなっていなかった」

2.2 「内の関係」と「外の関係」

この節では、モンゴル語の連体節の特徴を、日本語の連体節を研究した寺村秀夫 (1981, 1992) の成果に照らし合わせて説明する。以下は寺村 (1981) からの引用である (例文番号は本発表に合わせて変更した)。

- (3) この写真をとった人は誰ですか。
 (4) これは私がとった写真です。
 (5) さんまを焼く男の詩があっただろう。
 (6) 私たちは父が釣ってきた魚を食べました。
 (7) さんまを焼く匂いがしてくる。
 (8) 男がひとりさんまを焼く詩をおぼえているかい。
 (9) 誰かが階段から降りてくる音がした。
 (10) 君がそのとき聞いた音はこんな音だったか。
 (11) これは女房の幽霊が、三年目になってようやくあらわれる話である。
 (12) これは私が近所の年寄りから聞いた話である。
 (13) 清少納言と紫式部が逢った事実は、いまだ発見されていない。
 (14) 火事が広がった原因は空気が乾燥していたことです。
 (15) これも美栄子を殺した罪といえはいえそうだが、宗三はそう考えたくなかった。

[...]「連体修飾の構文には、大きく分けて二つのタイプのものがあることが分かる。上の (3) (4) (5) (6) (10) (12) のように、底の名詞が修飾部に対して、それに何かの格助詞をつけて修飾部と結びつけることができるような関係に立っている場合、言い換えると、ある文の中の補語である名詞をとり出して、被修飾語の位置に転じさせてできたというように説明できるような連体修飾における修飾部と底との関係を、かりに「内の関係」と呼び、そのような関係が認められないような—— (7) (8) (9) (11) (13) (14) (15) のような——場合を「外の関係」と呼ぶことにしよう。」

寺村秀夫 (1981: 89-93)

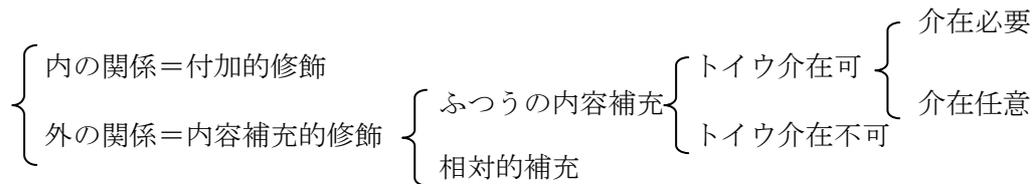
寺村はさらに、「外の関係」を大きく2つに下位区分した。1つ目は、連体節によって修飾される名詞句の表すものが具体的にどのような内容のものであるを、連体節が補って記述する関係になっているもの (ふつうの内容補充) である。2つめは、「前⇄後」「前日⇄(当日⇄)翌日」「原

因⇔結果」のような相対的な関係が「連体節」と「連体節により修飾される名詞」の間に見られるもの（相対的補充）である。

さらに「ふつうの内容補充」は「～という」という形式の介在があるかどうかで下位区分される。「～という」による介在があるものについては、その介在が必須かそれとも任意であるかによってさらに下位区分される。

上に述べたことを整理して示すと次の (16) のようになる。

(16) 寺村 (1981, 1992) による連体節の分類



寺村秀夫 (1992: 202, 266 の図を統合)

寺村の研究を参考にしたと思われる向井 (2006) は、モンゴル語の連体節を次のように分類した。

(表 1) モンゴル語の連体節の分類

	型	下位タイプ	結合形式 (節の述語が動詞の場合)
連体節	主要部共有型	/	(A 型) […形動詞形述語] + 主要部
	主要部非共有型	内容補充節	(B 型) […任意の述語] + 介在詞 + 主要部
		相対関係節	(C 型) […形動詞形述語] + 属格接辞 + 主要部

向井 (2006: 61) を一部改変³

比較のために、寺村 (1981, 1992) による日本語の連体節の区分を表 1 の形式に合わせて組み替えると次のようになる。

(表 2) 寺村による日本語の連体節の分類

	型	下位タイプ	結合形式 (節の述語が動詞の場合)
連体節	内の関係	/	(A 型) […連体形] + 主要部
	外の関係	ふつうの内容補充	(B 型) […任意の述語] + 介在詞 + 主要部
		相対的補充	(A 型) […連体形] + 主要部

向井 (2006) が用いる用語と寺村 (1981, 1992) が用いる用語の対応関係は (17) を参照。

³ 表のタイトル、および (A 型) (B 型) (C 型) のラベルを新たに加えた。また、「下位タイプ」と「結合形式」の列の位置を入れ替えた。

(17) 向井 (2006) と寺村 (1981, 1992) の用語の対応関係

向井 (2006)	寺村 (1981, 1992)
「主要部共有型」	「内の関係」
「主要部非共有型」	「外の関係」
「内容補充節」	「ふつうの内容補充」
「相対関係節」	「相対的補充」

内の関係 (主要部共有型) のモンゴル語の例は, 既に挙げた (1a), (2a) を参照。以下, モンゴル語のふつうの内容補充 (内容補充節) と相対的補充 (相対関係節) の例を挙げる。

(18) 「ふつうの内容補充 (内容補充節)」 (A 型)

D. Nacagdorž	ingež	{“Mongol-yn	zoxiolčd-yn	erx xemžeen-ij
PSN.NOM	この様にして	モンゴル-GEN	作家.PL-GEN	権利-GEN
dürem”	zoxio-x}	ažl-yg	ünsendee	garda-n
規則.NOM	創る-VN.NP	仕事-ACC	基本的に	手で行なう-CV.ASS
xij-sen	bajna.			
作る-VN.PST	MP			

「D. ナツァグドルジ (作家) はこの様に, モンゴル文筆家権利規定を制定する仕事を基本的に自らの手で行なったのである」 (向井 2006: 52) ⁴

(19) 「ふつうの内容補充 (内容補充節)」 (B 型)

{uran zoxiol-yn	ažl-yg	xögžüüle-x	ge-sen}	zaalt
文学-GEN	仕事-ACC	発展させる-VN.NP	言う-VN.PST	条項

「文芸活動を新興させるという条項」 (向井 2006: 63)

(20) 「相対的補充 (相対関係節)」 (C 型)

{Ted	ijm	ert	jav-dg-ijn}	učir	juu	ve?
3PL.NOM	この様に	早く	行く-VN.HAB-GEN	理由.NOM	何.NOM	Q

「彼らがこんなに早くでかける理由は何か？」 (向井 2006: 53)

(21) 「相対的補充 (相対関係節)」 (C 型)

{Xüčirxeg	Japon uls	bij bol-sn-y}	ündsijn ündes=n’
強大な	日本国.NOM	生じる-VN.PST-GEN	基盤.NOM=3POSS
üünd	baj-gaa	jum.	
これ.DAT	ある-VN.IPFV	MP	

「強大な日本国が誕生した基盤 (理由) はここにある」 (向井 2006: 53)

⁴ 例文番号の付与, ローマ字転写, グロス付与, 訳文の補完, 例文中の下線強調を, 引用にあたって新たに施した。以下, 向井 (2006) からの例文を引用する際には同様。

向井 (2006) によると、例 (20), (21) に見られるように、相対的補充（相対関係節）では形動詞形に属格接辞が付加される。

3. いくつかの問題点、および、今後の調査にあたって着目すべき点

2.2 節で述べたように、モンゴル語の連体節の下位区分が先行研究によって提示されている。3 節ではこの下位区分を利用しつつ、発表者の調査により現時点で分かっていること、および今後の調査にあたって着目すべきいくつかの点を述べる。

3.1 連体節中の主語名詞句の形

3.1 節では、連体節中の主語名詞句の格形を扱う。

3.1.1 内の関係（主要部共有型）の連体節における主語名詞句の形

先行研究の指摘⁵によれば、モンゴル語の連体節中の主語名詞句は属格で現れることが多い (Janhunen 2012: 273, Kullmann and Tserenpil 1996: 396, 向井 2006: 51)。

しかし、主格で現れる場合もある。Janhunen (2012: 274) は、次の (22) のように、連体節中の主語名詞句が代名詞ではなくかつ無生物である場合で、かつ文全体の内容が、その主語名詞句の指示対象の存在を表すようなものである場合には、当該の主語名詞句が主格で現れる場合があることを指摘している⁶。

(22) Ter bol {manaj mašin zogso-ž baj-san}
 それ.NOM FP 1PL.GEN 車.NOM 止まる-CVB.IPFV いる-VN.PST
gazar mön.
 場所.NOM 間違いない

“That is the place where our car was standing.” (Janhunen 2012: 274 ; ローマ字転写とグロスの本発表のものに揃えた。訳文は引用元のまま)

3.1.1 節冒頭からここまで述べてきた先行研究の議論は、それらの研究が挙げている例文から判断する限りでは、内の関係（主要部共有型）の連体節のデータに基づいているように思われる。

確かに発表者の観察でも、内の関係（主要部共有型）の連体節内においては、有生物を表す主語名詞句は属格で現れることが多い印象を受ける。

(23) Ter=čin' {[*xen / xen-ij] bütee-sen} bütee ve?
 それ.NOM=2POSS 誰.NOM 誰-GEN 創る-VN.PST 作品.NOM Q
 「それは誰[が/の]創った作品ですか？」

⁵ Guntsetseg (2016) において本節に関する議論が展開されている可能性があるが、発表者は未見である。また、内蒙古のモンゴル語における連体節中の主語名詞句の主格/属格交替について論じた研究には Hsiao (2012) や、Maki et al. (2015) (に収蔵されているいくつかの論文) がある。

⁶ Janhunen (2012: 274) は、連体節中の主語名詞句が代名詞である場合には、属格でのみ現れる（主格では現れない）ことも指摘している。

これまで述べたように、モンゴル語の連体節中の主語の形については、内の関係（主要部共有型）についてのみ議論され、外の関係（主要部非共有型）については見られない⁷。次の 3.1.2 節では外の関係（主要部非共有型）の例のうち、連体節内の主語名詞句が有生物である場合に限定して、現時点で分かっていることを提示する。

3.1.2 外の関係（主要部非共有型）の連体節における主語名詞句の形

A. モダリティーを表す「存在文」

発表者の観察では、外の関係（主要部非共有型）の連体節内でも、主語名詞句が属格（のみ）で現れる例が多くみられる。

- (24) {[*Dorž/ Dorž-ijn] avdar xij-ž baj-gaa}
 PSN.NOM PSN-GEN 収納箱.NOM 作る-CVB.IPFV いる-VN.IPFV
 janz=n' neg l biš bajna.
 様子.NOM=3POSS 少しおかしい MP
 「ドルジ[が/の]収納箱を作っている様子が少しおかしい」
- (25) {[*Dulmaa/ Dulmaa-gijn] aži-aa xij-ž baj-gaa}
 PSN.NOM PSN-GEN 仕事-REFL する-CVB.IPFV いる-VN.IPFV
 dür zurag nadad ix taalagd-dag.
 姿.NOM 1SG.DAT 多い 気に入る-VN.HAB
 「ドルマー[が/の]仕事をしている姿が私は好きだ」
- (26) {[*Bat/ Bat-yn] dandaa sogtuu-gaar mašin
 PSN.NOM PSN-GEN いつも 酔っ払い-INS 車.NOM
 bar'-dag} asuudl-yg=n' šijdverle-je.
 運転する-VN.HAB 問題-ACC=3POSS 解決する-TV.VOL
 「バト[が/の]いつも酔っばらって車を運転する問題を何とかしよう」
- (27) {[*Dorž/ Dorž-ijn] bankn-aas möngö zeel-ž
 PSN.NOM PSN-GEN 銀行-ABL お金.NOM 借りる-CVB.IPFV
 av-san} barimt nadad baj-gaa.
 取る-VN.PST 証拠.NOM 1SG.DAT ある-VN.IPFV
 「ドルジ[が/の]銀行からお金を借りてきた証拠が私にある」

⁷ ただし、内の関係（主要部共有型）の連体節内の主語の形についても、さほど詳しい研究がなされているわけではなく、今後記述を進めていく必要がある。

- (28) {[***Ted/** **Tedn-ij**] tomilolt-oor ažilla-san} **dun-g** odoo
 3PL.NOM 3PL-GEN 派遣-INS 働く-VN.PST 結果-ACC 今
 dügne-je.
 評価する-TV.VOL
 「彼ら[が/の]出張で働いた成果を（成果について）今これから査定しよう」
- (29) {[***Dulmaa/** **Dulmaa-gijn**] morin xuur toglo-ž
 PSN.NOM PSN-GEN 馬頭琴.NOM 演奏する-CVB.IPFV
 baj-gaa} **čimee** als-aas ujangala-n
 いる-VN.IPFV 音.NOM 遠い-ABL 奏でられる-CVB.ASS
 sonsogdo-ž baj-laa.
 聞える-CVB.IPFV いる-TV.PST
 「ドルマー[が/の]馬頭琴を演奏している音が遠くから良い調子で聞こえていた」
- (30) {[***Dorž guaj/** **Dorž guaj-n**] Xalx Gol-yn tulaldaan-d
 PSN 氏(敬称).NOM/ PSN 氏-GEN PLN-GEN 戦い-DAT
 orolco-ž baj-san} **namtar** maš ix taalagd-san.
 参加する-CVB.IPFV いる-VN.PST 伝記.NOM とても 気に入る-VN.PST
 「ドルジ氏[が/の]ハルハ川の戦いに参加していた伝記は（私には）とても気に入った」（ハルハ川の戦い＝日本名は「ノモンハン事件」）
- (31) {[***Enxee egč/** **Engxee egč-ijn**] Türk java-x} **surg-ijg**
 PSN 姉.NOM PSN 姉-GEN トルコ 行く-VN.NP 噂-ACC
 či duul-san uu?
 2SG.NOM 聞く-VN.PST Q
 「エンヘー姉さん[が/の]トルコに行く噂を聞いた？」

しかしその一方で、次のように外の関係（主要部非共有型）の連体節内において、主語名詞句が主格で（のみ）現れる例も観察される。

- (32) {[**Enxee egč/** ***Enxee egč-ijn**] Türk java-x} **surag**
 PSN 姉.NOM PSN 姉-GEN トルコ 行く-VN.NP 噂.NOM
 baj-na uu?
 ある-TV.NP Q
 「エンヘー姉さん[が/の]トルコに行く噂はある？」

- (33) {[**Bajaraa/** ***Bajaraa-gijn**] Darxan xoto-d surguuli-jn-xaa
 PSN.NOM PSN-GEN PLN 市-DAT 学校-GEN-REFL
 šine salbar-yg üüsgen bajguul-san} surag baj-na.
 新しい 分所-ACC 設立する-VN.PST 噂.NOM ある-TV.NP
 「バヤラー[が/の]ダルハン市に(自分が経営する)学校の分校を設立した噂がある」
- (34) {[**Enxee egč/** ***Enxee egč-ijn**] Türk java-x} janz alga
 PSN 姉.NOM PSN 姉-GEN トルコ 行く-VN.NP 様子.NOM ない
 bajna.
 MP
 「エンヘー姉さん[が/の]トルコに行く様子はない」
- (35) {[**Dorž/** ***Dorž-ijn**] xümüüs-tej xerelde-ž
 PSN.NOM PSN-GEN 人.PL-COM 口論する-CVB.IPFV
 muudalca-x} šaardlaga baj-x-güj.
 いがみ合う-VN.NP 必要性.NOM いる-VN.NP-NEG
 「ドルジ[が/の]他人と口論していがみ合う必要性はない(いがみ合うべきではない)」

(32)~(35) の文は次のような特徴を持つ。(i) 連体節によって修飾される名詞(句)が文全体の主語となり、その主語の表す(抽象的な)概念が存在すること(あるいは不在であること)が文全体で表されている(文全体が存在文・不在文になっている)、(ii)「連体節によって修飾される名詞+存在(不在)を表す述語」の部分が、連体節によって表される事象に関する必要性の有無、確実性の程度といったモダリティ的な意味を付している。

次の(36)は、連体節によって修飾される名詞(句)が文全体の主語となり、その主語の表すものが存在することを表している点で、(32)~(35)と同じ特徴をもっている(特徴(i))。しかし、「連体節によって修飾される名詞+存在(不在)を表す述語」の部分が、連体節によって表される事象に関する必要性の有無、確実性の程度といったモダリティ的な意味を付しているわけではない。このような例においては、(32)~(35)の場合とは異なり(=むしろ、それより前に見た(24)~(31)と同じように)主語名詞句は属格でのみ現れる。

- (36) {[***Dulmaa/** **Dulmaa-gijn**] morin xuur toglo-ž
 PSN.NOM PSN-GEN 馬頭琴.NOM 演奏する-CVB.IPFV
 baj-gaa} gerel zurag nadad baj-gaa
 いる-VN.IPFV 写真.NOM 1SG.DAT ある-VN.IPFV
 「ドルマー[が/の]馬頭琴を演奏している写真が私にある」

このように、連体節がどのような文で用いられるかによって、連体節中の主語名詞句の形が決

まる事例 (=例 32~35) が確認されている⁸。

B. 連体節により修飾される名詞が連体節内の主語の形に関与している例?

xereg 「事件」を修飾する外の関係 (主要部非共有型) の連体節内においては, 主語名詞句が主格 (のみ) で現れることが多い⁹。

- (37) {Xorin najman nastaj [A gegč/ *A gegč-ijn]
 28 歳の A(匿名)という人.NOM A という人-GEN
 gurvan xün-ij am' nas-yg xönöö-sön} xereg öčigdör
 3 人-GEN 命-ACC 害する-VN.PST 事件.NOM 昨日
 gar-san.
 出る-VN.PST
 「28 歳の A[が/の]3 人を殺害する事件が昨日起こった」

⁸ モンゴル語には, -taj 「~持ち」 (母音調和によって -toj, tej でも現れうる) と -güj 「無し」という接辞がある。例えば「子供」xüüxed に -taj (この場合は母音調和により -tej) が付いた語 xüüxed-tej 「子持ち」は, 用法の一つとして次のように述語として用いられる。

- (i) Bi xojor oxin-toj.
 1SGNOM 2 子供-PROP
 「私には 2 人の子供がいる」 (直訳: 私は 2 人の子持ち)

この -taj や -güj は, surag 「噂」や šaardlaga 「必要性」などの抽象的な語にもつきうる。例えば surag 「噂」に -taj が付加された surag-taj 「噂持ち」は次の例のように, 前に連体節をともなって文全体の述語として現れうる。

- (ii) Bajaraa Darxan xoto-d surguuli-jn-xaa šine salbar-yg
 PSN.NOM PLN 市-DAT 学校-GEN-REFL 新しい 分所-ACC
 üüsgen bajguul-san surag-taj.
 設立する-VN.PST 噂-PROP
 「バヤラーがダルハン市に (自分が経営する) 学校の分校を設立したそうだ」 (直訳: バヤラーはダルハン市に学校の分校を設立する噂持ち)

(ii) の冒頭にある語 Bajaraa は主格でのみ現れる (属格では現れない)。ここで (33) と (ii) を比べると, 両者は似た意味を表し, また, 両者の表面的な違いは文末の部分だけである。こうした (33) と (ii) の間の並行性が, (33) の連体節内の主語が主格でのみ現れることと, 何らかの関係があるかもしれない。

⁹ ただし, すぐ後で述べる üjl javdal 「出来事」の場合と同じように, xereg 「事件」を修飾する外の関係 (主要部非共有型) の連体節内において主語名詞句が主格と属格の両方で現れる例も観察される。

- (i) {[B. Mönxbajar / B. Mönxbajar-yn] buud-uula-n nas bar-san}
 PSN.NOM PSN-GEN 撃つ-CAUS/PASS-CVB.ASS 亡くなる-VN.PST
 xereg jösdüger sar-yn ex-eer gar-san.
 事.NOM 9月-GEN 初め-INS 出る-VN.PST
 「B. ムンフバヤルが撃たれて亡くなる事件が9月上旬に起こった」

- (38) {Ulsyn Ix Xurlyn gišüün [A / *A-gijn] maš
 国会議員 A(匿名).NOM A(匿名)-GEN とても
 nuuc bičig barimt-yg ger-t-ee xadgal-ž baj-san}
 秘密 文書-ACC 家-DAT-REFL 保管する-CVB.IPFV いる-VN.PST
 xerg-ijg Cagdaagijn Yörönxij Gazar šalga-ž baj-na.
 事/必要-ACC 警視庁.NOM 調べる-CVB.IPFV いる-TV.NP
 「国会議員 A[が/の]機密文書を自宅に（持ち帰って）保管していた事件を警視庁
 が調べている」

また、手元のデータを見る限りでは、üjl javdal「出来事」（javidal だけの場合もあり）を修飾する
 外の関係（主要部非共有型）の連体節内においては、主語名詞句が主格と属格の両方で現れる
 ことができる。

- (39) {[Dorž/ Dorž-ijn] ažilčd-aa ömöörsön}
 PSN.NOM PSN-GEN 従業員.PL-REFL 味方をする-VN.PST
 üjl javdal zöv züjl jum aa.
 出来事.NOM 正しい 事.NOM MP MP
 「ドルジ[が/の]従業員の味方をしたことは正しいことだ」
- (40) {Gurvan [gemt etgeed/ gemt etgeed-ijn] oncoc bar'caal-san}
 3 犯人.NOM 犯人-GEN 飛行機.NOM 質入れする-VN.PST
 javdl-yg ter darujd n' tusgajijnxan zogsoo-son.
 出来事-ACC 直ちに 特殊部隊.NOM 止める-VN.PST
 「3人の犯人[が/の]ハイジャックした事件を特殊部隊が直ちに制圧した」
- (41) {Manaj suman-d gadaad-yn nertej [ančid / ančd-yn]
 1PL.GEN 村-DAT 外国-GEN 有名な 猟師.PL.(NOM) 猟師.PL-GEN
 ir-sen} jadal bol bid nar-t ner tör-ijn xereg.
 来る-VN.PST 出来事.NOM FP 1PL-DAT 名誉-GEN 事.NOM
 「我が村に外国の有名な猟師たち[が/の]来た出来事は、我々にとって名誉なこと
 である」

このように連体節により修飾される名詞（の種類）が連体節内の主語の形に関与している（と
 思われる）例は現段階では他に見つからないが、今後の調査で名詞を入れ替えるなどして調
 べたい。

3.2 相対的補充の連体節（相対関係節）の連体節述語の形：属格接辞をともなうかどうか

2.2 節で述べたように、向井 (2006) の観察では、相対的補充の連体節（相対関係節）では述語
 である形動詞形に属格接辞が付加される。この指摘は正しいと思われるが、発表者の観察では、
 相対的補充の連体節（相対関係節）であっても、形動詞形に属格接辞が付加されない例も少な

らず見られる。すなわち、「相対的補充の連体節（相対関係節）では形動詞形に属格接辞が付加されうる」というのが実情のようである。例えば、相対的補充（相対関係節）の例に相当すると思われる (42), (43) では、連体節の述語である形動詞形に属格接辞が付く形も、付かない形も、両方とも許容される。

- (42) {Dorž-ijg [duuda-x / duuda-x-yn]} xereg baj-na uu?
 PSN-ACC 呼ぶ-VN.NP 呼ぶ-VN.NP-GEN 必要.NOM ある-TV.NP Q
 「ドルジを呼ぶ必要がありますか？」(3.1.2 節の B では、xereg が「事件」という意味を表す例を扱った。xereg は (42) のように「必要」という意味を表す場合もある。)

- (43) {Saja bol-son songuul'-d zarim tojrg-ijn sanaluud-yg
 最近 なる-VN.PST 選挙-DAT 幾つか 選挙区-GEN 票.PL-ACC
 xücingüj-d [tooc-son / tooc-sn-y]} šaltgaan=n'
 無効-DAT 見なす-VN.PST 見なす-VN.PST-GEN 原因.NOM=3POSS
 juu ve?
 何.NOM Q
 「このまえ実施された選挙でいくつかの選挙区の票を無効と見なした理由は何か？」

類例は (28) も参照 (但し (28) において連体節の述語である形動詞形に属格接辞が付く場合の容認度は未調査)。

ただし、全ての相対的補充（相対関係節）において、「連体節述語に属格接辞が付く形」と「付かない形」の両方が可能な訳ではない。

- (44) {Cagdaagijn gazr-aas alban josny xariu [*ir-sen / ir-sn-ij]}
 警察署-ABL 正式の 返事.NOM 来る-VN.PST 来る-VN.PST-GEN
 daraa ...
 後
 「警察署から正式の返事が来た後に…」

どのような場合に「連体節述語に属格接辞が付く形」と「付かない形」の両方（あるいは一方）が可能なのか、さらに調査を進める必要がある。また、コンサルタントに報告してもらった限りでは、「連体節述語に属格接辞が付く形」と「付かない形」の間に特に大きな意味の違いは感じられないようであるが、詳しく観察する必要がある。

3.3. 連体節述語のテンス・アスペクト

3.3 節では、連体節によって修飾される名詞が xereg 「必要」である場合の、連体節の述語がとるテンス・アスペクト形式について述べる。

連体節により修飾される名詞が xereg 「必要」であり、かつその連体節が外の関係（主要部非共

有型)である場合、連体節の述語の形が過去・完了を表すために用いられるもの(形動詞 -san)であっても、実際には未来に生じることを表すことができる(例 45)。

(42)(再) {Dorž-ijg [duuda-x / duuda-x-yn]} xereg baj-na uu?
 PSN-ACC 呼ぶ-VN.NP 呼ぶ-VN.NP-GEN 必要.NOM ある-TV.NP Q
 「ドルジを呼ぶ必要がありますか？」

(45) {Dorž-ijg [*duud-san / duud-sn-y]} xereg baj-na uu?
 PSN-ACC 呼ぶ-VN.PST 呼ぶ-VN.PST-GEN 必要.NOM ある-TV.NP Q
 「ドルジを呼ぶ必要がありますか？」

(42)(=連体節の述語が未来を表すために用いられる形であるもの)と(45)を比較すると、(42)では連体節の述語が属格をともなう形でも、ともなわない形でも、どちらででも現れることができるのに対して、(45)では属格をともなう形のみが許容される。

このような用例は、現時点では、連体節が修飾する名詞が xereg「必要」であり、かつその連体節が外の関係(主要部非共有型)である場合に限って観察される。xereg 以外に同様の事例があるか、またなぜ一部の名詞に限って(45)のような現象が観察されるのか、考察したい。

4. まとめ

本発表では2節で、モンゴル語の連体節の特徴を、先行研究を参照しながら概観した。

3節では2節で挙げた先行研究による連体節の下位区分を利用しつつ、発表者の調査により現時点で分かっていること、および今後の調査にあたって着目すべき点について述べた。

3.1節では、連体節中の主語名詞句の形(主語か属格)を扱った。先行研究の指摘によれば、連体節中の主語名詞句は属格で現れることが多い。しかしこの観察結果は、内の関係(主要部共有型)の連体節のデータのみに基づくものである可能性がある。そこで外の関係(主要部非共有型)の連体節内の主語名詞句の形を観察したところ、やはり属格で現れる例が多く観察されることが分かった。ただし、外の関係(主要部非共有型)の連体節内でも主語名詞句が主格で現れる場合がある。そうした事例を観察した結果、次の2つのことが分かった。

1つ目：次の特徴を有する文に現れる連体節内では、主語が主格で現れる。(i) 連体節によって修飾される名詞(句)が文全体の主語となり、その主語の表す(抽象的な)概念が存在すること(あるいは不在であること)が文全体で表されている(文全体が存在文・不在文になっている)、かつ、(ii)「連体節によって修飾される名詞+存在(不在)を表す述語」の部分が、連体節によって表される事象に関する必要性の有無、確実性の程度といったモダリティ的な意味を表している。

2つ目：連体節により修飾される名詞がある特定のものである場合に、連体節内の主語が主格で現れる。

3.2節では次のことを扱った：先行研究では、相対的補充(相対関係節)では、連体節の述語である形動詞形に属格接辞が付加されることが指摘されている。しかし、実際には属格接辞が付加されない形も現れうる。

3.3 節では、連体節が修飾する名詞が xereg「必要」であり、かつその連体節が外の関係（主要部非共有型）のものである場合、連体節の述語が過去・完了を表すもの（形動詞 -san）であっても、実際には未来に生じることを表すことができることを指摘した。

本発表で扱った現象はモンゴル語の連体節の全体から見ればごく限られた範囲で観察されるものであり、着目した点も極めて限られている。今後、様々な観点から調査を続けたい。

略号

-	affix boundary 接尾辞境界	NOM	nominative 主格
=	clitic boundary 接語境界	NP	non-past 非過去
1	first person 一人称	OPT	optative 希求
2	second person 二人称	PASS	passive 受身
3	third person 三人称	PFV	perfective 完結
ABL	ablative 奪格	PL	plural 複数
ACC	accusative 対格	PLN	place name 地名
ASS	associative 連合	POSS	possessive 人称所属
CAUS	causative 使役	PROP	proprietary 所有
CVB	converb 副動詞語尾	PSN	personal name 人名
DAT	dative-locative 与位格	PST	past 過去
FP	focus particle 焦点を表す小辞	Q	question particle 疑問小辞
GEN	genitive 属格	REFL	reflexive possessive 再帰所属
HAB	habitual 習慣	SG	singular 単数
INS	instrumental 造格	TER	terminative 限界
IPFV	imperfective 未完結	TV	terminating verbal 終止語尾
MP	modal particle モダリティ小辞	VN	verbal nominal 形動詞語尾
NEG	negative 否定		

参考文献

- Guntsetseg, Dolgor (2016) *Differential case marking in Mongolian*. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.
- Hsiao, Su-ying (2012) The nominative/genitive alternation in Modern Inner Mongolian relative clauses: A statistical perspective. *Linguistic Research* 29(2): 351-380.
- Janhunen, Juha A. (2012) *Mongolian*. London Oriental and African language library 19. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Kullmann, Rita and D. Tserenpil (1996) *Mongolian grammar*. Hong Kong: Jenco.
- Maki, Hideki, Liana Bao, Megumi Hasebe (2015) *Essays on Mongolian syntax*. Tokyo: Kaitakusha.
- 向井晋一 (2006) 「モンゴル語連体節の類型と分類」『日本モンゴル学会紀要』36: 49-69.
- 寺村秀夫 (1981) 『日本語の文法（下）』日本語教育指導参考書 5. 東京：国立国語研究所.
- 寺村秀夫 (1992) 『寺村秀夫論文集 I—日本語文法論—』東京：くろしお出版.